

令和元年度 第15回

卒業証書授与式

佐志岳

令和2年3月
文責：森健治



卒業生の皆さんを代表して、
代表して答辞を述べました。「今日私たちは南
部中学校を卒業し、それぞれの「道」へ進みま
す。その道で答えが一つではない問いや答えのな
い問いに出会うかもしれません。そんなときこ
そ南部中学校での三年間を支えにして未来に
向けて努力していきます。」また、卒業生の皆
さんから学校への卒業記念として、收音マイク
を頂戴しております。大切に使用させていただきます。
ありがとうございます。



心配されました卒業式は無事に開催することが
できました。来賓の皆さんには、ご遠慮申し上げ
る事態となりましたが、卒業生の保護者の皆様方
に多数ご来場の上、盛大に33名の卒業生を見送
ることができました。晴れの良き日、夢と希望を
もって、3年間学んだ南部中学校を元氣よく巣
立つて行きました。

多くの方々から卒業
生に対して、お祝いの言
葉や花束を頂戴しまし
た。特に、小学校時代に
お世話になった先生方
からは、懐かしい写真と
ともに、卒業生に対す
る成長の喜びと今後の
期待が綴られています。



私は式辞の中で、「常に謙虚であれ！ 感謝する心を忘れるな！ 挑戦し続けよ！」ということばを卒業生に対して贈りました。これは、私が常に思い、今でも追いつけていることばでもあります。人はとかく自分だけのことを見て自分を中心に物事をすすめていく傾向があります。窮地に立たされた時、逆に成功を収めた時などは特に、周りの人のことが見えなくなってしまう。昨年アフガニスタンにて亡くなられた中村哲という医師に関する話を通して、どんな時でも他人のことを考え気遣うことのできる人になってほしいと伝えました。また、他人から頂いた恩を素直に感謝できるような人になってほしいとも伝えました。「ありがとう」という感謝の言葉が素直に言えるような人になってもらいたいですね。最後に、チャレンジ精神を持ち続けてほしいことを伝えました。自分の夢やなすべき事に正面から向き合い、無限の夢や希望に向かってこれから歩ん

でいてほしいと願います。



在校生を代表して、2
年生の [] くんが
送辞を述べました。「これ
まで私たちが壁にぶつかつ
たとき、落ち込んだ時ア
ドバイスをくれたり話を
聞いてくれたりして支え
ていただきました。相談した時
には自分のことのように
考えてくださった優しさ
は忘れません。」在校生
のみんなで、この卒業式に
向けて体育館の会場準
備や教室装飾に励みまし
た。3年生の優しさや頼
もしさに感謝しなが
ら……。